

公益財団法人 千里文化財団

令和 6（2024）年度事業計画及び収支予算書

（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）

令和 6（2024）年

公益財団法人千里文化財団

令和6（2024）年度事業計画書（2024年4月1日～ 2025年3月31日）

当財団の目的は、「文化人類学・民族学等の振興を図るため、関係諸機関と連携しその普及に努める。それらの活動を通して人類の多様な社会や文化に対する市民の理解と教養を培い、地域社会に根ざしつつ、ひろく国際社会に貢献する」と定款に定められ、その目的を達成するための各種事業を推進し、文化振興や次世代育成等含め、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいる。

2024 年度は、現今の世界情勢、震災による地域復興の状況を踏まえつつ、当財団の果たすべき公益目的事業を推進するとともに、前年に引き続きコロナ禍で落ち込んだ国立民族学博物館友の会会員数の増強に資するさまざまな施策を実施する。本年は国立民族学博物館創設 50 周年、2027 年には開館と友の会発足 50 周年をそれぞれ迎えることから、公益目的事業の実施内容の見直しにも取り組み、創設 50 周年記念事業への協力、50 年間の活動記録作成や事業継承に向けた体制づくりに努める。

定款で定められている事業（第4条）

- (1) 文化人類学・民族学等に関する普及事業
- (2) 国立民族学博物館及び各種機関の活動に対する支援及び利用促進事業
- (3) 文化に関する各種事業の企画・運営及び各地域の文化振興に対する協力事業
- (4) 第 1 号から第 3 号にかかわる各種調査・研究の推進事業
- (5) この法人の目的にふさわしい諸活動に対する協力事業
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2024 年度の重点的な取り組み

- (1) 文化人類学の視点で SDGs を考察する事業
- (2) 2025 年大阪・関西万博の機運醸成のための事業の実施
- (3) ポストコロナの会員増強に向けた広報及びサービス事業の拡充
- (4) 国立民族学博物館創設 50 周年記念事業（2024 年）への協力

参考）2024年度 国立民族学博物館の創設50周年の取り組み

- (1) 『みんぱく50年史』の編纂
- (2) 民博名誉教授のインタビュー映像を含めた「館史アーカイブズ」
- (3) 創設50周年記念国際シンポジウムの開催 ほか

1. 文化人類学・民族学等普及事業

一般市民を対象に、文化人類学・民族学の普及のため、国内唯一の文化人類学・民族学の研究センターである国立民族学博物館の協力のもと、学術情報をわかりやすく提供する各種事業を企画・実施する。

- 1) 国立民族学博物館収蔵資料「梅棹忠夫アーカイブズ」の整理及びデータ整備と活用支援（受託事業）
膨大な梅棹忠夫アーカイブズ資料を整理し、総合的に関連付けた基礎データ作成及び利活用（原資料の保存、原資料のデジタル画像化によるデジタルアーカイブズの構築、閲覧、展示ほか）の支援をおこなう。
- 2) 文化人類学・民族学の研究促進・普及を目的とした図書の企画・編集・発行
家庭学術雑誌『季刊民族学』4号（188号～191号）の編集、発行、広報普及活動
※172号より、普及活動として書店での取扱いを促進するため取次会社を通して全国の書店に配本
別紙1：2024年度『季刊民族学』企画内容（案）

- 3) 国立民族学博物館、及び文化人類学・民族学の普及を目的とした各種講演会等の企画・運営
別紙2：2024年度講演会等企画内容（案）
- 4) 関連分野の研究活動の普及を目的とした事業の協力

2. 国立民族学博物館利用促進事業

国立民族学博物館の利用の促進を目的として、一般市民を対象に、各種協力事業を実施することにより利用者の便宜を図る。

- 1) 国立民族学博物館の展示理解向上及び普及のための教材制作事業
特別展図録『吟遊詩人の世界（仮）』の編集制作業務（受託事業：2024年8月末発行予定）
- 2) 国立民族学博物館の展示理解向上のための教材頒布及び広報普及事業としてのミュージアム・ショップの運営事業
 - ① 国立民族学博物館 本館展示の『展示案内』、特別展及び企画展の解説書、『月刊みんぱく』、『研究報告』、『民博通信』等、国立民族学博物館の刊行物の頒布
 - ② 国立民族学博物館の映像資料の複製発行及び頒布
 - ③ 国立民族学博物館オリジナルグッズの開発・販売
展示品のレプリカ、カレンダー、ポストカード、Tシャツ、クッキー、スタンプ、クリアファイル、トートバッグ、ステッカー、鉛筆、ノートブック、レターセット等
 - ④ 現地産民族資料及び文化人類学・民族学関連図書の販売
- 3) 国立民族学博物館の普及事業
 - ① 「国立民族学博物館友の会」の運営、及び会員の増強
国立民族学博物館ならびに文化人類学・民族学の普及を目的とし、国立民族学博物館と市民のあいだのかけはしとなる友の会を設け、博物館の活動を支援するとともに市民の博物館活用を促す。
2024年度の取り組み
会員種別毎に広報内容と対象を絞り、会員増強を目指す。
 - 入会キャンペーンの実施
 - 各種サービスの充実
 - 万博記念公園関連施設との連携の推進
 - キャンパスメンバーズへのサービスの見直し
 - ② 「国立民族学博物館友の会ニュース」の制作・発行（年6回発行）
 - ③ 国立民族学博物館キャンパスメンバーズの運営及び増強 別紙3参照
 - ④ 国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』誌面リニューアル及び編集制作業務（受託事業）
 - ⑤ 国立民族学博物館オリジナルカレンダーの制作及び頒布
- 4) 国立民族学博物館来館者の学習支援事業
 - ① 展示案内学習支援等業務を受託し実施する。（受託事業）
展示資料に関する情報提供・案内・学習支援、各展示場の施設・設備の案内、看視業務をおこなう、来館者への研究成果の情報提供を有効におこなう業務
 - ② 研究資料整理・情報化及び利用管理業務を受託し実施する。（受託事業）
標本資料及び映像・音響資料に関する情報の作成及び資料の整理等をおこなうとともに、情報サービス、展示準備・展示運営のための資料管理及び情報の作成・管理等をおこなう業務

- ③ 民族学資料共同利用窓口業務を受託し実施する。(受託事業)
国立民族学博物館の民族学資料（標本資料、文献図書資料、オリジナル映像・音響資料及び研究アーカイブズ資料）について館内外からの問い合わせに対応する窓口業務
- ④ 関連催し物の開催支援及び運営事業（受託事業）
- 5) その他 国立民族学博物館活動に協力する事業
 - ① 国立民族学博物館活動 特別展「日本の仮面 ― 芸能と祭りの世界」（3月28日～6月11日）、特別展「吟遊詩人の世界（仮）」（9月19日～12月10日）、及び企画展等、各種催しに対する協力
 - ② 研究普及活動に対する協力
 - ③ 国立民族学博物館創設50周年記念事業への協力
館史アーカイブズ、創設50周年記念国際シンポジウム開催への協力

3. 博物館活動支援及び調査研究事業

博物館に集積された知的財産を活用するプログラムを企画し、そのあり方を調査研究するとともに博物館活動を支援する。

- 1) 博物館に集積された資料と情報の活用方法及び博物館等の連携のあり方に関する調査研究
 - ① 出前授業プログラム開発及び普及 別紙4 参照
国立民族学博物館収蔵資料や情報を活用した出前授業プログラムの企画・開発・調査を通して、その知的財産を継続的に活用し普及することにより、博物館活動を支援する。
内容：出前授業「世界の文化で遊んで学ぼう！」（素材：ビーズ、風呂敷及び布、ブーメランほか）
 - ② 各地の博物館等を活用する巡回展や展覧会 別紙5 参照
国立民族学博物館所蔵資料による巡回展を各地で開催することで、国際的にも価値の高い民族学資料を有効に活用するとともに、異文化理解を普及促進することを目的とする。
開催場所：国立アイヌ民族博物館
展示内容：「驚異と怪異 ― 想像界の生きものたち」（9月14日～11月17日）〈予定〉
- 2) 博物館運営や展示のあり方に関する調査研究
 - ① 指定管理者制度に基づく博物館運営に関する調査研究
 - ② 博物館におけるミュージアム・ショップの役割に関する調査研究
- 3) 各地の博物館展示案内等の編集業務
 - ① 『山梨県立博物館 展示案内』（日本生命財団より受託。2025年2月納品予定）
 - ② 『陸前高田市立博物館 展示案内』（日本生命財団より受託。2026年2月納品予定）

4. 地域活性化・文化振興協力事業

多様な文化の振興をめざし、各種文化活動に協力する。

- 1) 日本万国博覧会記念公園関連施設との連携事業
2025年大阪・関西万博に向けたシンポジウムの開催
実施内容：2025年大阪・関西万博の開催に向けた機運醸成及び地域活性化のため、2021年度から万博開催年まで、1970年大阪万博が生み出した二大レガシーである万博記念公園と国立民族学博物館が協働して毎年開催するシンポジウム。

第1回シンポジウム：「人類・いのち・万博:1970から2025に向けて」（2021年11月23日）
第2回シンポジウム：「人類よ、どこへ行く？ポストコロナの世界を占う」（2022年10月29日）
第3回シンポジウム：「『日本人』の内と外—異文化接触を語り合う」（2023年10月28日）
第4回目は、「協働・共創の万博をめざして（仮）」をテーマに開催予定 ※別紙6参照

2) 「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する委員会運営業務（松下幸之助記念志財団より受託）

第33回「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務を受託し実施する。

「松下幸之助花の万博記念賞」：花の万博の基本理念「自然と人間の共生」の実現に貢献する、すぐれた学術研究や実践活動を顕彰している。

5月：第1回委員会、9月：第2回委員会、10月：第3回委員会、2月：授賞式

3) 各種学会支援業務

① 日本展示学会の事務業務（下記の事務局運営を含む）

「日本展示学会」の事務局業務を受託し実施する。

「日本展示学会」：展示に関する研究を技術論だけでなく、社会的・文化的な観点からもひろく研究することを目的とした学会。1982年に国立民族学博物館において設立

5月：監査、7月：総会及び研究大会（石川県金沢市での開催予定）、11月：学会誌発送、
秋頃：展示学講座、3月：学会誌発送

② 文化財保存修復学会 学会大会の開催運営業務

第46回学会大会開催準備及び当日運営等

開催場所：帝京大学八王子キャンパス（東京都八王子市）

開催月日：6月21日～23日

4) 同人雑誌『千里眼』の編集・発行

『千里眼』：千里地域に居住あるいは仕事場をもつ知識人による同人雑誌。

第166号～第169号の4号の編集を受託し発行する。

5) 公的機関との連携事業

長野県との「信州の山岳文化創生事業」の推進に関する包括連携協定に基づく協力

2024年度収支計算書（正味財産増減計算ベース）

2024年4月1日から2025年3月31日まで

（単位：円）

	予算額（A）	前年度予算額（B）	増減（A-B）
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	1,000	1,000	0
基本財産受取利息	1,000	1,000	0
受取会費	32,610,000	33,400,000	△ 790,000
維持会員	11,000,000	11,000,000	0
正会員	17,500,000	18,200,000	△ 700,000
家族会員	100,000	100,000	0
キャンパスメンバーズ	2,650,000	2,650,000	0
ミュージアム会員	1,000,000	1,000,000	0
フリーパス会員	360,000	450,000	△ 90,000
受取寄附金	1,000,000	0	1,000,000
受取寄附金	1,000,000	0	1,000,000
事業収益	247,388,000	235,598,000	11,790,000
事業収益	61,000,000	51,560,000	9,440,000
受託事業収益	185,388,000	183,038,000	2,350,000
広告収益	1,000,000	1,000,000	0
受取補助金等	1,000,000	1,000,000	0
受取助成金	1,000,000	1,000,000	0
雑収益	1,000	1,000	0
受取利息	1,000	1,000	0
経常収益計	282,000,000	270,000,000	12,000,000
(2)経常費用			
事業費	266,470,000	249,570,000	16,900,000
給料手当	123,000,000	121,500,000	1,500,000
臨時雇賃金	24,500,000	23,000,000	1,500,000
退職給付引当金繰入額	1,000,000	1,000,000	0
法定福利費	20,500,000	18,500,000	2,000,000
福利厚生費	500,000	1,500,000	△ 1,000,000
旅費交通費	3,000,000	2,500,000	500,000
通信運搬費	15,500,000	7,690,000	7,810,000
減価償却費	350,000	180,000	170,000
事務委託料	0	100,000	△ 100,000
印刷製本費	14,573,000	13,500,000	1,073,000
諸謝金	500,000	600,000	△ 100,000
会議費	4,447,000	500,000	3,947,000
光熱水費	450,000	400,000	50,000
消耗品費	600,000	600,000	0
保険料	10,000	300,000	△ 290,000
租税公課	17,000,000	16,600,000	400,000

(単位：円)

		予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A-B)
	原稿写真委託報酬	3,000,000	3,000,000	0
	支払手数料	1,400,000	700,000	700,000
	賃借料	4,440,000	3,600,000	840,000
	修繕費	50,000	50,000	0
	著作権等使用料	50,000	50,000	0
	教材等制作購入費	31,000,000	32,500,000	△ 1,500,000
	教材出版物等棚卸差額	400,000	1,000,000	△ 600,000
	館内サービス関係費	150,000	150,000	0
	雑費	50,000	50,000	0
	管理費	15,500,000	19,430,000	△ 3,930,000
	給料手当	6,200,000	10,000,000	△ 3,800,000
	臨時雇賃金	0	100,000	△ 100,000
	退職給付引当金繰入額	1,000,000	1,000,000	0
	法定福利費	1,100,000	1,450,000	△ 350,000
	福利厚生費	100,000	100,000	0
	旅費交通費	100,000	100,000	0
	通信運搬費	450,000	550,000	△ 100,000
	減価償却費	30,000	30,000	0
	印刷製本費	100,000	100,000	0
	諸謝金	3,400,000	3,400,000	0
	会議費	60,000	60,000	0
	光熱水費	150,000	120,000	30,000
	消耗品費	500,000	500,000	0
	保険料	250,000	200,000	50,000
	租税公課	200,000	100,000	100,000
	原稿写真委託報酬	250,000	250,000	0
	支払手数料	200,000	120,000	80,000
	賃借料	1,260,000	1,150,000	110,000
	修繕費	100,000	50,000	50,000
	雑費	50,000	50,000	0
	経常費用計	281,970,000	269,000,000	12,970,000
	当期経常増減額	30,000	1,000,000	△ 970,000
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
	経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用				
	経常外費用計	0	0	0
	当期経常外増減額	0	0	0
	当期一般正味財産増減額	30,000	1,000,000	△ 970,000
	一般正味財産期首残高	78,642,563	80,277,709	△ 1,635,146
	一般正味財産期末残高	78,672,563	81,277,709	△ 2,605,146
Ⅱ 正味財産期末残高		78,672,563	81,277,709	△ 2,605,146

収支予算の事業別区分経理の内訳表
2024年4月1日から2025年3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
	公益		
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	0	1,000	1,000
基本財産受取利息	0	1,000	1,000
受取会費	4,010,000	28,600,000	32,610,000
維持会員	0	11,000,000	11,000,000
正会員	0	17,500,000	17,500,000
家族会員	0	100,000	100,000
キャンパスメンバーズ	2,650,000	0	2,650,000
ミュージアム会員	1,000,000	0	1,000,000
フリーパス会員	360,000	0	360,000
受取寄附金		1,000,000	
受取寄附金		1,000,000	
事業収益	247,388,000	0	247,388,000
事業収益	61,000,000	0	61,000,000
受託事業収益	185,388,000	0	185,388,000
広告収益	1,000,000	0	1,000,000
受取補助金等	1,000,000	0	1,000,000
受取助成金	1,000,000	0	1,000,000
雑収益		1,000	1,000
受取利息		1,000	1,000
経常収益計	252,398,000	29,602,000	282,000,000
(2)経常費用			
事業費	266,470,000	0	266,470,000
給料手当	123,000,000	0	123,000,000
臨時雇賃金	24,500,000	0	24,500,000
退職給付引当金繰入額	1,000,000	0	1,000,000
法定福利費	20,500,000	0	20,500,000
福利厚生費	500,000	0	500,000
旅費交通費	3,000,000	0	3,000,000
通信運搬費	15,500,000	0	15,500,000
減価償却費	350,000	0	350,000
事務委託料	0	0	0
印刷製本費	14,573,000	0	14,573,000
諸謝金	500,000	0	500,000
会議費	4,447,000	0	4,447,000
光熱水費	450,000	0	450,000
消耗品費	600,000	0	600,000
保険料	10,000	0	10,000
租税公課	17,000,000	0	17,000,000
原稿写真委託報酬	3,000,000	0	3,000,000

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
	公益		
支払手数料	1,400,000	0	1,400,000
賃借料	4,440,000	0	4,440,000
修繕費	50,000	0	50,000
著作権等使用料	50,000	0	50,000
教材等制作購入費	31,000,000	0	31,000,000
教材出版物等棚卸差額	400,000	0	400,000
館内サービス関係費	150,000	0	150,000
雑費	50,000	0	50,000
管理費		15,500,000	15,500,000
給料手当		6,200,000	6,200,000
臨時雇賃金		0	0
退職給付引当金繰入額		1,000,000	1,000,000
法定福利費		1,100,000	1,100,000
福利厚生費		100,000	100,000
旅費交通費		100,000	100,000
通信運搬費		450,000	450,000
減価償却費		30,000	30,000
印刷製本費		100,000	100,000
諸謝金		3,400,000	3,400,000
会議費		60,000	60,000
光熱水費		150,000	150,000
消耗品費		500,000	500,000
保険料		250,000	250,000
租税公課		200,000	200,000
原稿写真委託報酬		250,000	250,000
支払手数料		200,000	200,000
賃借料		1,260,000	1,260,000
修繕費		100,000	100,000
雑費		50,000	50,000
経常費用計	266,470,000	15,500,000	281,970,000
当期経常増減額	△ 14,072,000	14,102,000	30,000
2. 経常外増減の部			0
(1)経常外収益			0
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 14,072,000	14,102,000	30,000
一般正味財産期首残高			78,642,563
一般正味財産期末残高			78,672,563
Ⅱ 正味財産期末残高			78,672,563

2024 年度「国立民族学博物館友の会」機関誌『季刊民族学』企画内容（案）

188 号（4 月 30 日発行予定）

1. 特集：「シン・シャーマニズム論（仮）」

〈特集のねらい〉

シャーマンとは、異世界を旅し、精霊や野生動物といった非人間と交流することで、異なる姿や新たな能力を獲得した人びとを指す。近年では、アメリカにおける認知科学の発達にともない、シャーマンが神とつながるための技術（技法）の秘密に迫るような新しい研究が増えている。本特集では、こうしたシャーマニックな技術の研究に着目し、人間の内的世界、人間の心の仕組みを明らかにするうえで、重要なヒントを探る。

〈特集構成〉

- ・島村一平（民博）「序論」 「ドラミングからライミングへ：モンゴルのシャーマニックな韻踏み文化」
 - ・河西瑛里子（民博）「グラストンベリーのシャーマンたちの技法」
 - ・松平勇二（ノートルダム清心女子大学）「シヨナ社会における憑依儀礼とンビラ演奏」
 - ・坂井弘紀（和光大学）「シャーマンとコブズ」
 - ・福寛美（法政大学）「歌とシャーマニズム：ユタと神の世界をつなぐ歌」
 - ・ショムファイ・ダーヴィッド（ハンガリー科学アカデミー）「キルギスのシャーマンのトランス技術」
 - ・山森靖人（関西外国語大学）「シャーマンの幻視とウィッチョルの毛糸絵」
 - ・ターニャ・ラーマン（スタンフォード大学）「神や精霊の声が聞こえる」（前編）
2. 誌上再録：日本万国博覧会記念公園シンポジウム 2023：「日本人」の内と外—異文化接触を語り合う
登壇者：橋爪節也、井上章一、ウスビ・サコ、吉田憲司
3. 連載：「フィールドワーカーの布語り・モノがたり」 第 6 回 宮脇千絵（南山大学）

189 号（7 月 31 日発行予定）

1. 特集：「先住民のデジタル世界（仮）」

〈特集のねらい〉

昨今急速な発展を遂げているデジタル技術やモバイル通信技術は、先住民・コミュニティの暮らしや文化、アイデンティティにどのような変化をもたらし、また活用されているのだろうか。動画共有サイトを使った先住民運動、コロナ禍における儀礼のオンライン化、携帯電話がもたらすコミュニティの新たな繋がり、SNS の発信によって変化する文化表象などを手がかりに、新しい先住民文化の姿を探る。

〈特集構成〉

- ・平野智佳子（民博）「総論」
 - ・栗田梨津子（神奈川大学）「オーストラリア都市先住民の SNS を通したアイデンティティの形成」
 - ・長岡慶（東京大学）「国境係争地の日常とデジタルメディア」
 - ・山越英嗣（都留文科大学）「故郷の伝統をデジタルアーカイブ化する」
 - ・額田有美（南山大学）「コスタリカの先住民居住区におけるソーシャルメディアを用いた言語継承や文化的実践」
 - ・神崎隼人（阪大院）「アマゾニアの森と河を守るために欠かせない情報通信技術たち」
 - ・土井冬樹（民博外来研究員）「踊りのデジタルアーカイブ」
 - ・渡辺浩平（民博外来研究員）「スマートフォンと SNS が日常生活にもたらす影響」
 - ・北原モコットウナシ（北海道大学）
2. 記事：松井梓（環インド洋地域研究国立民族学博物館拠点）「モザンビーク島における近所づきあいについて」
本谷裕子（慶應義塾大学）「マヤ先住民集落における風あげ儀礼と民族衣装」
ターニャ・ラーマン（スタンフォード大学）「神や精霊の声が聞こえる」（後編）
3. 連載：「フィールドワーカーの布語り、モノがたり」 第 7 回 佐藤若菜（京都女子大学）

190 号 (10 月 31 日発行予定)

1. 民博創設 50 周年記念 特集：「1974：文明史の転換点として（仮）」

〈特集のねらい〉

本年は民博が創設された 1974 年から 50 年の節目の年である。1974 年は前年に起きた第 1 次オイルショックを機に高度経済成長が終焉を告げた年として記憶される。1968 年を頂点とする近代的価値観への「異議申し立て」から新しい価値観が胎動しはじめたのもこの頃だ。本特集では、民博が誕生した 1974 年前後の日本と世界に着目する。学術や思想、技術、文化などいくつかの分野をとりあげ、半世紀後の今がどのようにして形成されたかを考える。

〈執筆依頼候補〉杉本良男（民博名誉教授） など

2. 記事：木下靖子（金沢大学）「バヌアツにおける食物分配について」

竹井恵美子（大阪学院大学）「ミャンマーにおけるチーズづくり」

3. 連載：「フィールドワーカーの布語り、モノがたり」 第 8 回 田村うらら（金沢大学）

4. 索引 ※10 号毎

191 号 (2025 年 1 月 31 日発行予定)

1. 特集：「大阪：「民の都」の未来（仮）」

〈特集のねらい〉

2025 年 4 月に開幕する大阪・関西万博を前に、大阪の都市文化を考えたい。大阪は歴史的には、日本で最初の首都が置かれたとされ、その後、中世の宗教都市や、近世以降の「商都」「水都」「工都」と、都市のアイデンティティは変遷し、近年は「笑都」なる呼称も生まれている。しかし、歴史を通じて一貫しているのは、町人や市民が主役を務める「民の都」だったという点だ。都市の潜在的な記憶の表出としての文学・学術・芸能・美術や建築を通して、大阪という都市の可能性、未来への希望を探りたい。

〈執筆依頼候補〉吉田憲司（民博）、橋爪節也（大阪大学名誉教授） など

2. 記事：未定

3. 連載：「フィールドワーカーの布語り、モノがたり」 第 9 回 窪田幸子（芦屋大学）

※上記の連載は 2025 年 10 月号まで掲載予定

『季刊民族学』普及促進についての取り組み

■ 出版取次トーハン、書店への卸販売

『季刊民族学』書店配本への取り組みとして、プレスリリース、チラシ（注文書）の制作及び配布

■ SNS (Twitter/Facebook) を用いた『季刊民族学』宣伝活動（下記が発信内容）

- 1) 最新号の刊行案内（刊行日・特集タイトル・特集概要・HPリンク・表紙写真・目次写真）
刊行日前後に投稿
- 2) 最新号の掲載記事紹介（タイトル・執筆者・紹介文・HPリンク・冒頭ページ写真）
刊行後、日を空けて掲載記事 1 本ずつ投稿
- 3) 過去号の掲載記事紹介（タイトル・執筆者・紹介文・冒頭ページ写真）
時事ニュースや最新号の内容等と関連のある過去記事を不定期で投稿
- 4) ミュージアム・ショップの入荷情報など、『季刊民族学』購入に関する案内を投稿
- 5) その他、『季刊民族学』やみんぱくに関連する投稿のシェア

2024 年度「国立民族学博物館友の会」講演会等 企画内容 (案)

2023 年度は「アフターコロナ」への転換により、オンライン配信の利点を生かしながら、各種催しを実施した。午餐会を再開し、2 回の宿泊を伴う体験セミナーも満席となった。本年度は、国立民族学博物館創設 50 周年を迎えることから、周年記念事業に関連した話題を中心に講演会を実施し、民族学研修の旅（海外）については再開に向け、状況を精査しながら準備を進めていく。※：調整中

1) 国立民族学博物館友の会講演会

●大阪

【会場：国立民族学博物館】通算回数（開催日）：「演題」/ 講師(所属)

開催日時：毎月第 1 土曜日、13:30 ~15:00

（講師より許諾を得られた場合に限り、オンライン中継ならびにアーカイブ公開をおこなう）

第 547 回 4 月 6 日（土）

「ベトナム中部高原のゴング文化」/ 柳沢英輔（京都大学特任助教）

第 548 回 5 月 4 日（土・祝）【みんぱく創設 50 周年記念特別展「日本の仮面—芸能と祭りの世界」関連】

「仮面とわたし」/ 吉田憲司（民博館長）

第 549 回 6 月 1 日（土）【みんぱく創設 50 周年記念企画展『水俣病を伝える』関連】

「企画展『水俣病を伝える』の舞台裏—フィールドワーク展示の試み」/ 平井京之介（民博教授）

第 550 回 7 月 6 日（土）【みんぱく名誉教授シリーズ】

「話題調整中」/ 竹沢尚一郎（民博名誉教授）

第 551 回 8 月 3 日（土）

「古代エジプトの書字文化—『刻む文字』と『書く文字』の世界」/ 永井正勝（民博特任教授）

第 552 回 9 月 7 日（土）【みんぱく創設 50 周年記念企画展「客家と日本（仮）」関連】

「話題調整中」/ 河合洋尚（東京都立大学准教授）

第 553 回 10 月 5 日（土）【みんぱく創設 50 周年記念特別展「吟遊詩人の世界（仮）」関連】

「話題調整中」/ 岡田恵美（民博准教授）

第 554 回 11 月 2 日（土）※

第 555 回 12 月 7 日（土）※

第 556 回 2025 年 1 月 11 日（土）※

第 557 回 2025 年 2 月 1 日（土）※

第 558 回 2025 年 3 月 1 日（土）※

話者候補

矢野原佑史（京都大学特任研究員）※秋季特別展関連、宇田川妙子（民博教授）、伊藤敦規（民博准教授）、鈴木昂太（民博助教）、古沢ゆりあ（民博機関研究員）、大石侑香（神戸大学准教授）、片岡樹（特別客員教員/京都大学教授）

●東京

【会場：東京他】通算回数（開催日）：講師(所属) / 「演題」

開催日時：不定期、13：30～15：00

第 137 回 2024 年 6 月頃 ※

第 138 回 2024 年 12 月頃 河西瑛里子（民博助教）

第 139 回 2025 年 1 月頃 ※

第 140 回 2025 年 3 月頃 ※

話者候補

赤尾光春（民博特任助教）、金谷美和（国際ファッション専門職大学教授）、鈴木昂太（民博助教）、
植村幸生（東京藝術大学教授/特別客員教員）

2) 国立民族学博物館友の会みんぱく見学会

開催日時：友の会講演会終了後不定期に開催、15：00～15：30

通算回数（開催日）：「展示名」 / 講師(所属)

第 83 回 5 月 4 日（土・祝）【みんぱく創設 50 周年記念特別展「日本の仮面—芸能と祭りの世界」関連】
本館展示 / 吉田憲司（民博館長）

第 84 回 8 月 3 日（土）
本館展示 / 永井正勝（民博特任教授）

第 85 回 9 月 7 日（土）【みんぱく創設 50 周年記念企画展「客家と日本（仮）」関連】
企画展（本館） / 河合洋尚（東京都立大学准教授）

第 86 回 10 月 5 日（土）【みんぱく創設 50 周年記念特別展「吟遊詩人の世界（仮）」関連】
特別展 / 岡田恵美（民博准教授）

第 87 回 秋頃 ※

3) 国立民族学博物館友の会 民族学研修の旅

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、2020 年より休止していた民族学研修の旅を再開する。

ただし、燃油高騰・円安の影響を考慮し、当面は年に 1 回のペースで企画準備を進めていきたい。

【企画候補】

通算回数（開催日）／テーマ／講師（所属）／訪問時期／訪問先／内容

第 95 回 テーマ：メキシコの民衆芸術に出会う（仮）

講師：鈴木紀（民博教授）、訪問時期：2025 年 2 月頃、メキシコ

好評を博した 2022 年度春季特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」のコンセプトを継承し、講師の主要な調査地であるメキシコを訪ねる。「民衆芸術」が育まれた背景となる歴史や文化（先コロンブス時代、それ以降の文化混交、為政者への批判精神、先住民文化等）への理解を深めながら、工房や市場、ミュージアム等を見学する。工房ではワークショップの機会も取り入れ、制作者との交流を深める。

4) 国立民族学博物館友の会体験セミナー

民族学研修の旅を年 1 回のペースで再開することを踏まえ、地域の文化振興に資する多様なテーマで日帰りのコンパクトな催しを複数回実施したい。

【企画候補】 ※内容・講師ともに調整中。評議員会資料に正式反映。

通算回数（開催日）／テーマ〔地域〕／訪問時期／訪問先／内容

- ・テーマ：ガランとアラビアンナイト（仮）〔兵庫県〕
18 世紀はじめ、『千一夜』（仏語）を最初に西欧に紹介したアントワーヌ・ガランについて、UCC コーヒー博物館内サロンにて、コーヒーに関するピアノ曲の生演奏を聴きながら学ぶ。
- ・テーマ：フェルミエ（チーズ農家）を訪ねる（仮）〔岡山県〕
牛の飼育からチーズ作りまでを一貫しておこなうフェルミエ（チーズ農家）。風土に根差した乳加工の知恵を現場（工房）で実見しつつ、世界各地の事例と比較する。役目を終えたあとの乳牛の食肉・革利用、地域の食文化とのコラボレーションにも着目したい。
- ・テーマ：高知県の民間信仰・いざなぎ流を知る（仮）〔高知県〕
高知県香美市物部に伝わる民間信仰・いざなぎ流。神道・仏教・修験道・陰陽道の影響を汲みつつ、暮らしのよりどころとなる信仰形態が育まれてきた。その存続が危ぶまれる今、知識の継承のあり方にも注目しつつ、山間部の暮らしに理解を深める。

5) 国立民族学博物館友の会午餐会 ※国立民族学博物館維持会員対象

第 207 回 開催日：7 月頃に開催予定

話題提供者調整中 / コメントーター：吉田憲司（民博館長）

6) オンラインレクチャー

本財団の意義や役割、事業を理事長から親しく会員に周知、紹介する機会として発足し、遠方居住会員へのサービス提供や、会員同士の交流機会の創出をはかってきた。当初は感染症対策もあり、オンライン形式で開始したが、対面で各種催しが実施できるようになったことに加え、友の会事業のコンテンツの選択肢として利用が定着してきており、引き続き会員と財団との身近な接点、窓口の一つとして充実をはかる。

- ・中牧理事長のオンラインサロン
2024 年 11 月頃、2025 年 1 月頃。対面での交流機会を 2024 年 6 月に設ける。
- ・友の会講演会、主催事業のアーカイブ公開。

7) 外部広報事業

【企画候補】

- ・阪急生活楽校 × 国立民族学博物館

大阪の表玄関、梅田に位置している阪急百貨店うめだ本店に設けられた、うめだホールと併設されているうめだギャラリーは、新しい生活文化の発信基地として、講演会や展示会等さまざまな目的で活用されている。国立民族学博物館の広報を目的とし、うめだホールを会場に、文化人類学の知見を生かした親しみやすいテーマで講演会を実施する。（未定）

国立民族学博物館キャンパスメンバーズ事業

1. 事業の名称：国立民族学博物館キャンパスメンバーズ新規獲得（案）

2. 趣旨：

2010年に創設された「国立民族学博物館キャンパスメンバーズ」であるが、これまで、同制度に関する直接的な民博の窓口が定かではなく、登録校からのさまざまな要望や新たなサービスの追加など、解決の糸口すら難しい状況にあった。しかしながら、本年度より、本制度の民博担当窓口が定まるとの通知があったことを受け、登録校からの要望や新たなサービスの追加等、民博担当者と一緒に解決してゆくことで、近畿圏を中心とする大学教育機関に、「国立民族学博物館キャンパスメンバーズ」の存在とその意義等を知っていただき、より多くの大学教育機関に登録していただくことをめざす。

まず、キャンパスメンバーズの新たなサービスとして、現在、民博と話し合っており、民博が有する映像資料の大学授業で利用サービスの本年度中の提供をめざす。

参考)

「国立民族学博物館キャンパスメンバーズ」とは、国立民族学博物館が大学共同利用機関法人として、大学等教育機関との連携を図り、文化人類学（民族学）にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度。

3. 訪問候補先：

※2024年度も昨年に引き続き、近畿圏の芸術、ファッション、教育、観光系学部等をもつ大学にひろくはたらきかけるとともに、新サービスの追加がなかった場合、文化人類学や国際交流関係の学部にもはたらきかける予定。

大阪公立大学、京都府立大学、兵庫県立大学、大阪教育大学、大阪国際工科専門職大学、大阪音楽大学、大阪観光大学、大阪国際大学、国際ファッション専門職大学、大阪学院大学、大阪商業大学、京都外国語大学、京都教育大学、京都芸術大学、京都工芸繊維大学、京都嵯峨芸術大学、京都伝統工芸大学校、京都美術工芸大学、成安造形大学、芸術文化観光専門職大学、奈良教育大学、佛教大学、龍谷大学、芦屋大学、大和大学、大阪国際大学等

4. 現在登録している大学・学部（対象：学生、教職員）：

大阪大学、千里金蘭大学、塚本学院（大学ほか）、同志社大学（グローバル地域文化学部）、同志社大学（文化情報学部）、立命館（大学ほか）、京都大学、追手門学院大学（文学部・国際教養学部）

5. 以前におうかがいしている大学：

関西大学（4回程度うかがう）

関西学院大学（当財団理事通して、打診）

武庫川女子大学（関連学部担当教授へ打診）

京都市立芸術大学（学長時にお願い、2年間は登録）

京都文教学園（大学/短大）※当初ご登録いただいたが、文化人類学部がなくなり退会

神戸大学（総務部人事労務課へ2回うかがう）

2024 年度出前授業「世界の文化で遊んで学ぼう！」活動計画（案）

1. 趣旨：

国立民族学博物館に集積された資料や情報を活用した出前授業プログラムの企画・開発・実施をおこなう。開発したプログラムは学校や公共施設、巡回展開催会場等において実施し、小学生から大人まで、多くの人びとが世界の文化に触れることができる場を提供するとともに、博物館活動の広報普及に貢献する。実施するプログラムでは、体験や交流を取り入れ、楽しみながら世界の多様な文化を学べるようにする。

2. 実施予定プログラム：

- ・「ビーズで世界とつながろう！ーペーパービーズづくりに挑戦！」
- ・「いちまい布を使ってみよう！ー日本のふろしき、世界のいちまい布」
- ・「オーストラリア先住民アートを使ったものづくり（仮）」（開発中）

3. 活動計画：

・ 出前授業の実施

近隣地域の学校や地域の公共施設、また地域の団体からの出前授業依頼を募り、他団体主催のイベント等において実施する。（年 6 回程度）

・ 出張ワークショップの実施

個人を対象に、地域の公共施設等を会場とし、当財団主催のイベントを実施する。

時期：夏休み期間（7 月下旬～8 月中旬）、12～1 月に各 1 回、年 2 回の実施を目標

・ 新規プログラムの開発及び既存プログラムの改良

・ 出前授業依頼募集用チラシの作成と配布、インターネット上での広報活動

国立民族学博物館 巡回展「驚異と怪異」開催概要

1. 名称：国立アイヌ民族博物館第9回特別展／国立民族学博物館巡回展
「驚異と怪異——想像界の生きものたち」（仮）
2. 概要：

2019年度に国立民族学博物館で企画・開催された「驚異と怪異——想像界の生きものたち」を巡回展として、本年度秋季に国立アイヌ民族博物館にて開催する。本巡回展は、2020年度に兵庫県立歴史博物館、2022年度に高知県立歴史民俗資料館、2023年度に福岡市博物館を巡回し、今回で4回目の開催となる。

これまでの巡回展では、開催地に関連した民俗資料や伝承にかかわるコンテンツを追加し、地元の文化や歴史をグローバルな文脈で展示してきているが、アイヌの文化では、想像上の生きものを視覚的に具象化しない傾向があるため、これまでの巡回展での趣向とは異なる工夫が必要と思われる。アイヌ文化の独自性を浮かびあがらせられるように、何をどのように展示するか検証作業をおこない、追加資料を選定する。
3. 開催期間：9月14日（土）～11月17日（日）予定
4. 開館時間：午前9時00分～午後6時00分（休館日：毎週月曜日）
5. 会場：国立アイヌ民族博物館〈北海道白老郡白老町若草町2丁目3-1〉特別展示室
6. 主催：国立アイヌ民族博物館 国立民族学博物館 千里文化財団
7. 後援：北海道アイヌ協会〈予定〉
8. 協力：市立函館博物館、千歳市教育委員会、東北大学附属図書館、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館、八戸市博物館、北海道大学植物園・博物館、湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）〈予定〉
9. 展示点数：約350点
10. 観覧料：大人（一般）1,200円〔ウポポイ（民族共生象徴空間）の入場料（国立アイヌ民族博物館の基本展示室の観覧料を含む）〕＋300円〔特別展示観覧料〕〈予定〉
11. 関連事業：〈予定〉
 - ① 9月14日（土）13:30（60分）開会記念ギャラリートーク（山中由里子）
 - ② 9月15日（日）13:30（60分）開会記念講演会（山中由里子）
「人はなぜモンスターを想像するのか？」（仮）
 - ③ 10月13日（日）13:30（60分）民博×アイヌ博クロストーク
 - ④ 10月14日（月）13:30（60分）音関係クロストーク

当館（アイヌ博）研究員、学芸員等によるギャラリートーク ※各30分

 - ① 9月21日（土）13:30
 - ② 9月22日（日）13:30
 - ③ 10月26日（土）13:30
 - ④ 11月3日（日）11:00
 - ⑤ 11月3日（日）13:30
 - ⑥ 11月17日（日）13:30

日本万国博覧会記念公園シンポジウム 2024 事業計画 (案)

1. 趣旨：

2025 年大阪・関西万博の開催に向けて、2021 年度から万博開催年まで、開催地である大阪及び関西の機運醸成及び地域活性化のため、1970 年大阪万博が生み出した二大レガシーである万博記念公園と国立民族学博物館が協働して開催するシンポジウム。

第 1 回目は「人類・いのち・万博:1970 から 2025 に向けて」と題して、2021 年 11 月 23 日に開催。第 2 回目は「人類よ、どこへ行く？ ポストコロナの世界を占う ― Quo vadis, homini?」と題して 2022 年 10 月 29 日に開催、第 3 回目は「『日本人』の内と外―異文化接触を語り合う」と題して 2023 年 10 月 28 日に開催した。
2. 2024 年度テーマ：「協働・共創の万博をめざして」（仮題）
3. シンポジウム概要：

2025 年大阪・関西万博開幕の前年となる本年の本シンポジウムでは、過去 3 回の提言型内容からシフトして、より開催にコミットするかたちで、過去 3 回のシンポジウムの成果がどう実際の万博に生かされつつあるのか、開催まで 1 年をきった状況での具体的な報告をとりあげる。パネルディスカッションでは、2025 年大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を中心にとりあげ、「共創」、「SDGs」、「コミュニティ」、「多文化共生」、「情報化」、「2025 レガシー」、万博コンセプト「People's Living Lab - 未来社会の実験場」などをキーワードに、万博のあり方について討論する。
4. 開催日時：2024 年 10 月 26 日（土）13：30～16：30（開場 13：00）
5. 会 場：国立民族学博物館 みんなくインテリジェントホール（講堂）

※参加費無料、要事前申込、定員 350 名

※オンライン配信あり（申込不要）、ホームページで公開予定。
6. 主催：公益財団法人千里文化財団
7. 共催：大阪府、国立民族学博物館（依頼予定先）
8. 協力：国立大学法人大阪大学、公益財団法人関西大阪 21 世紀協会、公益財団法人大阪日本民芸館、大阪モノレール株式会社、万博記念公園マネジメント・パートナーズ（依頼予定先）
9. 後援：公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会、吹田市、NHK 大阪放送局（依頼予定先）
10. プログラム案：

13：30 挨拶 中牧 弘允 千里文化財団理事長

13：40 シンポジウムの開催にあたって 吉田 憲司 国立民族学博物館長

14：00 報告 1

14：20 報告 2

14：40 報告 3

<休憩 10 分>

15：30 パネルディスカッション ファシリテーター 吉田 憲司

16：30 閉幕

パネリスト候補

- ◎ 西尾章治郎氏（大阪大学総長）：「いのち会議」事業推進協議会発起人代表
- ◎ 齋藤 精一氏（パノラマティクス）：EXPO 共創プログラムディレクター
- ◎ 佐野真由子氏（京都大学大学院教授）：万博協会理事、万博学研究会代表
- ◎ ウスビ・サコ氏（京都精華大学全学研究機構長）：万博協会副会長（理事）
- ◎ ジョイ・ヘンドリー氏（オックスフォード・ブルックス大学名誉教授）